



APEC|日本驻沪总领事：将为日中青年交流创造条件

小原雅博/日本驻上海总领事

2014-11-04 19:11 来自 外交学人

【编者按】

下周，日本首相安倍晋三将赴中国参加在北京举行的 APEC 峰会，因历史与领土争端陷入冰点的中日关系是否出现转圜备受瞩目。在这一背景下，日本驻上海总领事小原雅博专门为澎湃新闻撰文，呼吁两国能通过增进民众坦承交流与互相理解让中日关系走上良性轨道。全文如下。



日本驻上海总领事小原雅博。

我来到上海就职已一年有余。1年前，我曾对贵媒体谈到“在政冷之际，更需要交流和对话，我们应该向前看”。这1年以来，我们正是以此为重点开展工作，致力于促进日中两国之间的交流，努力加强和中国各界的对话。

首先，经济交流方面。在经济领域，日中两国之间已是“你中有我、我中有你”，两国之间共同的经济利益越来越多。而以上海为中心的中国华东地区对两国经济依存关系来说，更是发挥着关键性的作用。

我上任以来，参加过多家日企的开业典礼，接触过很多日资企业，并为他们解决困难、提供信息，与他们所在的各地人民政府加强沟通和磋商。在我馆的辖区上海市、江苏省、浙江省、安徽省、江西省这一市四省，日资企业多达2万多家，两国由此构筑起了深厚的经济交流基础。

虽然由于人工费上涨等因素，今年上半年日本对华制造业的投资减少了三成多，但是附加值高的产业如金融、物流、零售等第三产业投资却呈增加趋势，特别是今后，日本在环保、医疗、养老看护等领域的投资预计将不断扩大，经济交流仍将持续发展。

上海设立自由贸易区已逾1年，我方对此一直给予关注和厚望。期待通过自贸区的顺利建设，中国进一步开放，经济进一步发展，这对日本乃至世界的经济繁荣都将提供很大机遇。

其次是文化交流方面。上海是一个国际大都市，这里东西方文化交融，传统和最时尚潮流并存，是一个充满魔力和魅力的城市。在日中两国文化交流上，上海也理所当然成为前沿之地。

这1年以来，我们陆续举办了各种文化交流活动，有茶道和插花讲座、和服表演及穿着讲解、日本新娘化妆技讲授等等，受到日本文化爱好者的热情参与。

今年6月的上海国际电影节期间，隆重举办了“日本电影周”。我们邀请了很多中国朋友观赏日本影片，在促进对日本文化、社会的理解和关心上取得了很大成功。我真心希望，在这个信息化时代，更多的中国朋友能够借助网络等现代工具直接接触日本电影、电视剧、动漫等各种日本文化。现在去日本交通也非常便利，如果有条件，尽量亲自去日本看看，直观地了解日本真实情况，消除对日本文化、社会的误解。

说到文化交流，我还想到了近日在日本获得热烈反响的中国芭蕾舞剧《朱鹮》。朱鹮是日中两国人民共同喜爱的“吉祥之鸟”，日中两国围绕朱鹮开始合作，成为两国民间交流的一大佳话。我也观看了此剧，这部舞剧呼吁人类与自然和谐共处，青年演员们的精彩表演令人动容。10月7日我国安倍首相夫妇也观摩了该舞剧。明年6月起还将在日本28个城市举行50多次巡演，我期待着两国国民通过此剧，共赏和谐和平的人类共同价值追求，增进相互了解，促进改善两国的国民感情。

第三，我想说说观光交流。我前面谈到，上海是一个对各种文化兼收并蓄的国际大都市，很多朋友对日本怀有兴趣。从签证数量来看，自开始统计以来，我馆已连续5年在我国驻海外使领馆中创下最高的签发记录，尤其是今年以来随着赴日观光的中国游客激增，签证量呈爆发性增长。

我们来看看这个数据：2012年全年的签证签发量是43万，刷新了历史记录。而今年仅仅半年就突破了这个数字，预计全年签证总数将达到前年的两倍。我为此深受鼓舞。我身边去过日本的中国朋友都说对日本印象颇佳，我作为总领事感到非常高兴，也欢迎更多的中国朋友造访日本，同时越来越多的日本国民来到中国，通过亲身体验和接触，以及面对面的对话和交流，加深相互理解。

但是据统计，近年来访问中国的日本人数在减少。游客数量自不必说，更令人忧心的是，如果日本的年轻人也远离中国的话，势必不利于两国的长期友好。

百闻不如一见，我想说几件事情来说明亲身见闻的重要性。前次，日本九州的某位市长带着两个孩子来到中国，此前孩子们对中国的印象都是来自网络、电视等媒体，而这次亲身来到中国耳闻目睹后，完全改观了之前的不良印象，对中国产生了好感。

另一事是今年3月，在我的官邸欢送日本人学校任期结束即将回国的60位日本老师，我请他们每人发表10秒钟的临别感言时，几乎每个人都异口同声说到来中国之前很不安，也遭到过家属反对，但是来了以后，发现周围的人都非常友善，工作生活很顺利，中国之行给他们留下了美好的人生记忆。

尤其是青少年，他们是担负两国未来的栋梁一代，作为总领事，我非常希望两国年轻人能加强相互交流和了解。年轻人对时尚、音乐、动漫等有着跨越国界的共同爱好，相同兴趣会迅速拉近彼此距离。年轻人之间有着更多的交流空间，也有向前看的未来精神。因此，来年我馆将和上海日本商工俱乐部合作，共同实施促进两国青少年的相互访问。届时希望日中两国媒体共同报道，让更多人认识到青少年相互往来的重要意义。

正如我在所有公开场合都呼吁的那样，交流至关重要。日中两国作为不可能搬家的邻居，一衣带水，“和则两利，斗则俱伤”，通过坦诚交流、促进了解、改善国民感情以便构筑长久稳定的国家国民关系是双方唯一的选择。两国唯有从大局出发，走出一条追求共同发展的“双赢”之道，才是真正能建立“战略互惠关系”而有益于子孙后代的相处之道。关于对两国关系的看法和见解，我们也欢迎贵媒体读者随时来信来电，我们期待各方的宝贵意见。谢谢！

澎湃新闻报料：4009-20-4009

来週、日本の安倍晋三首相は中国を訪問し、北京で開催されるAPECに出席する。歴史や領土をめぐる争いで冷え切った中日関係が回復するのが注目される。こうした背景の下、小原雅博・在上海日本国総領事が澎湃ニュースへ単独寄稿し、人々が交流と相互理解の価値を率直に認め、それらを推進していけば、中日関係を望ましい方向へと動かしていくことができると呼びかけた。全文は以下のとおり。

上海に着任して一年余りが経ちました。一年前、私は貴紙でこう述べたことがあります。「『政冷』の時こそ交流と対話を進めていく必要があります。我々は前に向かって進むべきです」。この一年、我々はまさにこの点に重きを置きながら、仕事を進めてきました。日中間の交流促進に注力し、中国の各界の方々との対話を強化することに努力を注いできました。

交流の中でまず挙げたいのは、経済交流です。経済分野において、日中両国は既に「君の中に我あり、我の中に君あり」の如き関係となり、共通する経済利益はますます拡大しています。中でも上海を中心とした華東地域は、両国の経済相互依存関係の観点から、一層重要な役割を果たしています。

着任以来、私は日本企業の開業記念式典に幾度となく出席し、話を聞く機会を数多く持ちました。当館はこうした企業がビジネスを展開していく上での問題の解決や情報の提供を行うとともに、企業が活動する地方政府部門との意思疎通や協議を強化してきました。当館の管轄地域である上海市、江蘇省、浙江省、安徽省、江西省の一市四省における日系企業の数には2万社以上にも達しており、両国はこうした厚みのある経済交流の基礎を築いてきたと言えます。

人件費の上昇等により、今年上半期は日本の製造業による対中投資が三割余り減少したものの、付加価値の高い金融や物流、小売り等の第三次産業への投資は反って勢いを増しています。特に今後は環境保全や医療、高齢者介護等の分野において日本の投資は拡大し続けると見られ、両国の経済交流はこれからも発展のペースを維持していくでしょう。

上海に自由貿易試験区が設置されて一年になりますが、我々はずっと同試験区に注目し、大きな期待を寄せてきました。同試験区が順調に発展することにより、中国の開放が更に進展し、中国の経済が更に発展することを期待しています。それは、日本ひいては世界経済の繁栄に大きなチャンスをもたらすことでしょう。

次に、文化交流を挙げたいと思います。上海は巨大な国際都市です。東西の文化が融け合いながら伝統と最新の流行が併存するという不思議な力と魅力に溢れている都市です。日中間の文化交流においても、上海は言うまでもなく最前線にある場所だと言えます。

この一年、我々は様々な文化交流イベントを途切れることなく実施してきました。茶道や生け花の講座、和服ショーや着付け体験講座、花嫁を題材にしたメイクアップ技術の解説等、いずれも日本文化ファンが大変喜んで参加してくれました。

また、今年6月の上海国際映画祭の期間中には、「日本映画週間」を盛大に開催することができました。多くの中国の方々に招いて日本の映画を鑑賞して頂き、文化・社会面における日本への理解と関心を促進する上で大きな成功を収めました。現在のような情報化された時代においては、より多くの中国の皆さんがインターネット等のツールを介し日本の映画やドラマ、アニメ等の様々な日本文化に直接触れることを心から期待しています。現在では、日本への交通アクセスも非常に便利になりました。もし条件が整えば、可能な限り自ら日本を訪れ、自らの目で日本を見て頂き、日本の本当の姿を直接自ら理解して頂くことで、日本の文化や社会に対する誤解を解いてほしいと強く願っています。

文化交流と言えば、最近日本で大きな反響を呼んだ中国のバレエ公演「トキ」を思い出します。トキは日中の人々に愛される「吉祥の鳥」であることから、両国間でトキをめぐる協力関係をスタートさせたところ、民間交流の大きな成果となりました。私もその公演を鑑賞しましたが、この舞台劇は人類と自然との調和・共存を訴えかけており、若い出演者達のすばらしい演技は、非常に感動的なもの

のでした。10月7日には、我が国の安倍総理夫妻もこの舞台劇を鑑賞しています。来年6月からは日本の28都市で50回以上の公演が実施される予定です。日中双方の人々が、この舞台劇を通じて平和や調和という人類共通の価値の追求を共に味わい、相互理解を増進し、国民感情の改善が促されることを期待しています。

最後に、観光による交流を挙げたいと思います。上海は様々な文化を吸収し蓄積してきた国際都市であると先に述べましたが、日本への関心を持っている方々がやはりたくさんいます。査証発給件数から言えば、統計を取り始めて以来、当館は海外の全公館中5年連続で最多の査証発給件数を誇っています。特に今年は、中国からの訪日観光客の激増に伴い、査証発給件数は爆発的に増えています。

数字でご説明しましょう。2012年の一年間の査証発給件数は43万件で、それまでの記録を塗り替えました。ところが、今年はわずか半年でこの記録も破られ、一年間の査証発給総数は一昨年の二倍となる見込みです。私はこの数字に大変励まされています。また、日本を訪れた中国の方々も、口を揃えて日本の印象はとても良かったと話してくれます。総領事として嬉しい限りです。今後更に多くの中国人が日本を訪れ、同時に日本人もどんどん中国を訪問し、自ら体験し、出会い、そして顔と顔を向き合わせて対話し交流をすることで、相互理解を深めることを願っています。

しかしながら、統計によると最近中国を訪れる日本人の数は減少しています。観光客の数は言うまでもありませんが、より心配になるのは、もし日本の若い世代までもが中国と距離を置いてしまっているのであれば、それは両国の長期的な友好にとり望ましいことではありません。

「百聞は一見に如かず」と言いますが、自ら体験することの大切さについて、いくつかのエピソードを紹介して説明したいと思います。先頃、日本の九州地方の某市長が、二人の子どもを連れて中国を訪問しました。その子ども達は中国と言えば、全てインターネットやテレビ等を通じた印象しかありませんでしたが、自ら中国に来て中国を自らの目で見て自らの耳で聞いたことで、以前の悪い印象は完全に改まり、中国に対し好感を持つようになったそうです。

もう一つは、今年3月、任期を終えて帰国する日本人学校の先生60名を公邸に招いて歓送会を開催した時のことです。それぞれ帰任前の感想を10秒ほどで発表してもらったところ、ほぼ全員が異口同音に、「中国へ来る前は不安を感じて家族も反対していたが、実際に来てみると周りの中国人はとても友好的で、仕事も生活も順調だった」という趣旨の話をしてくれました。中国での滞在は、教師達にすばらしい人生の記憶を残したのです。

交流においては、総領事として、特に両国の将来を担う青少年達が、相互の交流と理解を深めてくれることを強く願っています。流行や音楽、アニメ等に対して国境を越えた共通の趣味や関心を持っている若い世代は、互いに相手への距離を一気に縮めていくことができます。若者同士であれば交流できる空間も大きく、未来志向の精神も持ちあわせています。こうした観点から、当館は来年、上海の日本商工クラブと協力し、両国青少年による相互訪問を共同で実施することを計画しています。実施の際には、日中双方のメディアによる報道を通じて、より多くの人々が青少年交流の重要な意義を認識してくれることを願っています。

私自身これまで何度も公の場で力を込めて述べているとおり、交流は極めて重要です。日中両国は引越しすることができない隣人として、一衣帯水であり、「鬪えば共に傷つき、和すれば共に利する」関係です。率直な交流、理解の促進、両国国民感情の改善を通じ、長期に安定的な国家と国民の関係を構築することが双方にとり唯一の選択肢です。両国は大局から出発し、共同発展を追求するウィン・ウィンの道を歩むことによってこそ、真に「戦略的互惠関係」を構築することができるのであり、子々孫々後生に亘って共存する道につながるのです。読者の方々も両国関係に対する見方や見解について手紙や電話で知らせてくださることを歓迎します。皆さんの貴重な意見をお待ちしています。ありがとうございました。

(全て原文のまま訳出)